
ハイスクールD×S.CRY.D

ラングリフ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハイスクールD×S・CRY・D

【Nコード】

N8940V

【作者名】

ラングリフ

【あらすじ】

女神のような悪魔様とその下僕の物語……………

になるといいなあ…

プロローグ1（前書き）

やってみた！

プロローグ 1

世界はとても不思議に出来ている

例えば地球の形。大昔は平らな円だと思われていたり、机の上であるとも考えられたりもした。しまいには場所によっては亀やら象やらが支えているものだとも考えられていた

例えばジャイアントパンダ。アレだって今でこそ周知のモノではあるが発見されるまではUMA扱いであったり化け物扱いであったりもした。

例えば携帯電話。これだってほんの50年前の人間からすれば黒電話であつたのがこれ程まで小さく、ハイテクなものになるなんて誰が想像できただろうか？

と、まあこんな風に色々と述べまくっていることに「なに言つてんだ、コイツ？」的なものを感じている。

ただ、少し冷静になりたかつたんだ。色々と言って冷静になりたかつたんだ。

あ、大事なことから二回言つてみた。

さて、おふざけはこの辺にしておこう。魚雷先生に來られてもやだし。

さて、ふざけ倒していた俺の現状、それは……………

「あらあ？もお鬼ごっこはオ・ワ・リ？」

可愛い顔した真っ黒い翼をその背に背負い、手から光溢れ出させ、
其を大きな刃に形付けた何かを俺に差し向けた少女と相対してんだ
よっ！！

あ、ちなみに現在の状況は袋小路でございます

なんでこんなわけのわからん事態になっちまってるんだよっ！！

プロローグ2

「あらあ？もお鬼ごっこはオ・ワ・リ？」

光の剣^{キヨウキ}を握り袋小路な俺にその刃を向けてどこか妖艶な、しかし危険な表情^{カメン}をその顔に張り付けた少女にしだいに俺の身体は強張り、全身に緊張と恐怖が張り付き、口腔は渴き、自身の意思とは関係無く骨と肉は動き力チ力チと歯がぶつかり合う不快な音を鳴らし続ける。

ここまで逃げてくるのに全力を使い、呼吸も荒く脚も震えていることにここに来てようやく気付く。

どうやら先程までは頭が身体の状態を緊張からキチンと把握出来ていなかったただけであつたらしい。

とことん俺はバカに出来ているらしい。

「もう、ダンマリはダメエ……けど仕方ないのかしらねえ？」

烏少女（暫定）は俺の反応がないことに不満そうに声を上げている。

おいおい、今の俺の状態で喋れるヤツなんざ俺以上のバカくらいしかないだろうて

「鬼ごっこはあ、楽しかったけどお、もう動けないんじゃないかあ、お開きよねえ？……それじゃあ、もんだいいい、鬼ごっこでえ、捕まったらあ、どおなるでしょおかあ？」

は、んなもん……

「たあいむう、おおくばあ。せえかい^{けえむおおくばあ}はあ、死よあ」

その一言と共に烏少女（暫定）は手を俺じゃあ視認も出来ないスピードで動かし……

【ドスッ！ー！】

「あ、ぐう、ああ………」

光の刃で俺の腹を投げ穿っていた

ああ、やつべえ……血い、ダボダボ出てやがらあ……

しゃあねえ……この状況になったら一回言ってみたかったセリフ、

あつたんだよなあ

「…な、んじゃ…………こりゃあ……………」

へへ、言えた、言えたあ…

結局最後までネタに走って終わるってのが俺らしい
なんて思いながら俺は瞼を閉じていき、どこか満足そうに笑いなが
ら…………意識がゆっくりゆっくりと墜ちていった…………

ああ、でも…………

「墮天使の気配を感じてきてみれば……へえ、なんか面白そうなのが落ちてるなあ……ウフツ、リアスお姉様の所に遊びに来てみて正解だったかも」

「って、戦車^{ルーク}2駒分っ！？うつそ！この人そんな凄いの？」

「うーん……まさか女王^{クイーン}よりも先に戦車^{ルーク}だなんて……」

「でもでも、ここのでいっとなないともう巡り会わないかも知れないし……」

「ああもうっ！どっすればいいのっ！」

「って！早くしないとこの人帰って来られなくなっちゃうじゃない！」

「う…………あ…………」

「あつ！あなた、まだ意識が在るのっ!？」

「し…………た…………ね…………」

「え？なにっ!？」

「し荷々苦、ねエ」

「……………わかったわ。助けてあげる」

「でも再び目が覚めた時、あなたはもう人間ではないわ^{化け物になるわ}」

「もう人間としての時間は手に入らない」

「そして私の永遠の従者^{下僕}となる」

「それでもなお、あなたは生を求める？」

「求めると言うのなら私の『^{イーヴィル・ピース}悪魔の駒』を、2つの『^{ルーク}戦車』を受け取りなさいっ！」

「私の、サラス・グレモリーのっ！最強の戦車^{ルーク}として！今！^{蘇り}転生なさいっ！っ！」

プロローグ2（後書き）

ああ、あの日の出来事は夢だったのか……

否、目に焼き付きし黒い翼と光の剣……

そして最後に見た赤い髪の少女……

ああ、彼はかの出来事を胸に探し始める……

何故生きているのか、あの少女達はなんだったのだろうか、と……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8940v/>

ハイスクールD×S.CRY.D

2011年10月9日13時26分発行